

瑞雲寺

平成30年9月9日（日）



大賀ハスの由来

大賀ハスは、昭和二十六年に植物学専攻大賀一郎博士が、千葉市の検見川の草炭地縄文遺跡発掘現場から三粒発見、世界最古のハスの種子であることが認定され、翌二十七年そのうちの一粒が発芽し、二〇〇〇年前のハスの花として話題を集めた。

当瑞雲寺「ハス極楽園」は、平成十四年開山堂・位牌堂の再建を記念に造園し、海部郡の小粥さんより十五種のハスの苗を譲り受けた。大賀ハスは、当地出身者の太田光明先生の手添えで、東京大学から苗と種子を譲り受け、北側の二つの池を大賀ハスの池として増殖している。

平成十四年四月吉日
白龍山 瑞雲寺 蓮華極楽園

